

# 資料編

---

## 1 参考文献

---

### 第1章

#### 第1節

武村雅之（2003）：『関東大震災・大東京圏の揺れを知る』，鹿島出版会，139.

諸井孝文・武村雅之（2002）：関東地震（1923年9月1日）による木造住家被害データの整理と震度分布の推定，『日本地震工学会論文集』，第2巻，第3号，35-7.

諸井孝文・武村雅之（2004）：関東地震（1923年9月1日）による被害要因別死者数の推定，『日本地震工学会論文集』，第4巻，第4号，21-45.

#### 第2節

小川織三（1926）：東京市上水道震害調査報告，『震災予防調査会報告』第100号丁，215-233.

澁澤元治（1926）：震災に因る電気工作物の被害状況，『震災予防調査会報告』第100号丁，251-287.

竹内六蔵（1925）：大正十二年九月大震災に因る死傷者調査報告，『震災予防調査会報告』第100号戊，229-264.

東京市役所（1926）：『東京震災録・前輯』，1090.

内務省社会局（1926）：『大正震災志』上巻，1236.

那波光雄（1926）：国有鉄道震害調査報告，『震災予防調査会報告』第100号丁，145-214.

諸井孝文・武村雅之（2002）：関東地震（1923年9月1日）による木造住家被害データの整理と震度分布の推定，『日本地震工学会論文集』，第2巻，第3号，35-7.

諸井孝文・武村雅之（2004）：関東地震（1923年9月1日）による被害要因別死者数の推定，『日本地震工学会論文集』，第4巻，第4号，21-45.

諸井孝文・武村雅之（2006）：1923年関東地震における死者発生のプロセス—1855年安政江戸地震との比較をふまえて—，『歴史地震』，第21号，47-58.

#### コラム

今村明恒（1925）：関東大地震調査報告，『震災予防調査会報告』第100号甲，1-20.

緒方惟一郎（1925）：関東大地震に因る東京大火災，『震災予防調査会報告』第100号戊，1-79.

竹内六蔵（1925）：大正十二年九月大震災に因る死傷者調査報告，『震災予防調査会報告』第100号戊，229-264.

武村雅之・諸井孝文（2001）：1923年関東地震による木造建物被害数が混乱する原因，『日本建築学会構造系論文集』第543号，97-104

千葉県罹災救護会（1933）：『大正大震災の回顧と其の復興』上巻，990，下巻，1506.

内務省社会局（1924）：『震災調査報告』，162.

内務省社会局（1926）：『大正震災志』上巻，1236，下巻，836.

内務省社会局（1926）：『大正震災志写真帖』，166.

中村左衛門太郎（1925）：関東大震災調査報告，『震災予防調査会報告』第100号甲，21-66.

松沢武雄（1925）：木造建築物に依る震害分布調査報告，『震災予防調査会報告』第100号甲，163-260.

諸井孝文・武村雅之（2001）：1923年関東地震に対する東京市での被害データの相互比較と地震動強さ，『日本建築学会構造系論文集』，第540号，65-72.

諸井孝文・武村雅之（2004）：関東地震（1923年9月1日）による被害要因別死者数の推定，『日本地震工学会論文集』，

第4巻, 第4号, 21-45.

## 第2章

### 第1節

大塚彌之助(1929) : 延命寺断層の東方延長に就て, 『地震』第1輯, 第1号, 793-798.

金森博雄・安藤雅孝(1973) : 関東大地震の断層モデル, 『関東大地震五十周年記念論文集』, 89-101.

Sato, H., Hirata, H., Koketsu, K., Okaya, D., Abe, S., Kobayashi, R., Matsubara, M., Iwasaki, T., Ito, T., Ikawa, T., Kawanaka, T., Kasahara, K. and Harder, S. (2005) : Earthquake source fault beneath Tokyo, Science, vol. 309, pp462-464.

穴倉正展(2000) : 離水海岸地形からみた1703年元禄関東地震における房総半島の地殻上下変動, 『歴史地震』, 第16号, 113-122.

穴倉正展(2003) : 変動地形からみた相模トラフにおけるプレート間地震サイクル, 地震研究所彙報, 第78巻, pp245-254

穴倉正展(2004) : 過去の地震による海岸の隆起『地震と活断層—過去から学び、将来を予測する—』, 丸善株式会社, 172-183.

穴倉正展・原口強・宮内崇裕(2001) : 房総半島南西部岩井低地の離水海岸地形からみた大正型関東地震の発生年代と再来間隔, 『地震』第2輯, 第53巻, 357-372.

田中館秀三(1926) : 関東大地震と海岸の昇降運動(其一〜其四), 『地学雑誌』, 第38巻

遠田晋次(2005) : 関東の地震テクトニクス再考: 新しいプレート構造の提案, 『地球惑星関連学会2005年合同大会予稿集』, S045-008.

中田 高・木庭元晴・今泉俊文・曹 華龍・松本秀明・菅沼 健(1980) : 房総半島南部の完新世海成段丘と地殻変動, 『地理学評論』, 第53巻, 29-44.

Noguchi, S. (2002) : Earthquake Clusters in the Kanto and Tokai Subduction Zones : Implications for Modes of Plate Consumption, Seismotectonics in Convergent Plate Boundary, Terra Scientific Publishing Company, 451-467.

Miyabe, N. (1931) : On the vertical earth movements in Kwanto districts, Bull. Earthquake Res. Inst. Tokyo Univ., vol. 9, 1-21.

茂木昭夫(1959) : 関東大地震における相模湾海底変動について, 『水路要報』, 第60号, 52-60.

山崎直方(1925) : 関東地震の地形学的考察, 『震災予防調査会報告』第100号乙, 11-54.

陸地測量部(1926) : 関東震災地一帯に於ける土地の隆起及沈下状態, 『地震研究所彙報』, 第1号, 第2節65-68.

### 第2節

浜田信生(1987) : 1923年関東地震の震源の深さについて, 『験震時報』, 第1-2号別冊, 1-6.

金森博雄・安藤雅孝(1973) : 関東大地震の断層モデル, 『関東大地震五十周年記念論文集』, 89-101.

神田克久・武村雅之(2004) : 1923年関東大地震の震度インバージョン解析, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』, 503-505.

Kobayashi, R., and K. Koketsu(2005) : Source process of the 1923 Kanto earthquake inferred from historical geodetic, teleseismic, and strong motion data, Earth Planets Space, 57, 261-270.

武村雅之(2003) : 『関東大震災—大東京圏の揺れを知る』, 鹿島出版会, 139.

Wald, D. J., and P. G. Somerville(1995) : Variable-slip rupture model of the great 1923 Kanto, Japan, earthquake : Geodetic and body-waveform analysis, Bull. Seism. Soc. Am., 85, 159-177.

## 第3章

### 第1節

井上公夫(1995) : 関東大地震と土砂災害, 『砂防と治水』, 104号, 14-20.

井上公夫(2000) : 4.3 関東地震(中村浩之・土屋智・井上公夫・石川芳治編), 『地震砂防』, 古今書院, 60-70.

## 資料編

- 井上公夫 (2001) : 関東地震 (1923) と土砂災害, 『月刊地球』, 23巻2号, 147-154.
- 井上公夫 (2005) : 地震に起因した土砂災害地点を訪ねて—関東地震 (1923年) と北伊豆地震 (1930年) に学ぶ, 『深田研ライブラリー』, 70, (財) 深田地質研究所, 73.
- 井上公夫 (2006 a) : 関東地震と土砂災害, 地すべり学会関東支部設立記念シンポジウム, 一大地震と都市部の地盤災害, 概要集, 6-9.
- 井上公夫 (2006 b) : 歴史災害に学ぶ土砂災害対策, 富士山宝永噴火 (1707), 浅間山天明噴火 (1783), 関東大震災 (1923), 土木施工, 2006年6月号, 2-10.
- 井上公夫・伊藤和明 (2006) : 関東地震 (1923) に関連した神奈川県内の土砂災害, 平成18年度砂防学会研究発表会講演集, T1-1, 14-15.
- 内田一正 (2000) : 『人生八十年の歩み』, 内田昭光発行, 151.
- 神奈川県 (1927) : 『神奈川県震災誌』及び『大震災写真帖』, 本文848.
- 神奈川県環境部環境政策課 (1992) : 『神奈川県新アポイドマップ (地震編)』, 湘南地区 (その1), 西湘地区, 足柄地区.
- 神奈川県企画部企画総務室 (1987, 88, 91) : 土地分類基本調査, 5万分の1, 『自然災害履歴図』, ①小田原・熱海・御殿場, ②藤沢・平塚, ③秦野・山中湖 図幅.
- 神奈川県警察部 (1926) : 『大正大震災火災誌』, 写真50, 本文1203.
- 神奈川県 (1930) : 『神奈川県震災荒廃林野復興事業図』, 昭和四年度迄, 縮尺五萬分之壹, 環境農政部森林課蔵.
- 神奈川県環境農政部森林課 (1984) : 『神奈川県林政史』, 東邦印刷.
- Kamai T. (1990) : Failure mechanism of deep-seated landslides caused by the 1923 Kanto earthquake, Japan, Proc. 6 th Int. Conf. and Field Workshop on landslides, 187-198.
- 釜井俊孝 (1991) : squeeze 型地すべりの発生機構, 『1923年根府川駅地すべり』, 地すべり, 27巻, 1-8.
- 鎌倉町役場 (1930) : 『鎌倉震災誌』, 写真32, 本文319.
- 建設省河川局砂防部 (1995) : 『地震と土砂災害』, 企画・編集/(財)砂防・地すべり技術センター, 61.
- 建設省土木研究所 (1995) : 平成6年度地震時の土砂災害防止技術に関する調査業務報告書 (その3), 一地震による土砂生産, 災害及び及び対策の検討, 第2編, 108.
- 国土庁土地局国土調査課 (1994) : 『土地保全図』 (相模湾北西地区), 『微地形分類図』, 『災害履歴図』, 縮尺2万5千分の1及び土地保全調査 (相模湾北西地区) 報告書, 『一地震による山地崩壊と保全一』, 85.
- 小瀬村初男編 (1989) : 『玉川河川水害史』, 一昭和16年7月小野地区の水害記録一, 厚木市市民かわら出版局, 157.
- 杉本誠史 (1993) : 関東地震による酒匂川流域の液状化, 『神奈川県地学』, 73号, 神奈川県地学会, 8-13.
- 地質調査所 (1925 a) : 千葉県安房郡地震調査報文, 関東地震調査報告第一 『地質調査所特別報告』第1号, 1-54.
- 地質調査所 (1925 b) : 千葉県上総下総地震調査報文, 関東地震調査報告第一 『地質調査所特別報告』第1号, 55-173.
- 千葉県罹災救護会 (1933) : 『大正大震災の回顧と其の復興』上巻, 990, 下巻, 1506.
- 千葉県立安房博物館 (2003) : 平成15年度企画展, 『地震と津波』, 展示解説図録, 111.
- 鉄道省 (1927) : 『大正十二年鉄道震害調査書』
- 寺田寅彦・宮部直巳 (1932) : 秦野に於ける山崩れ, 『地震研究所彙報』, 10巻, 192-199.
- 内務省社会局 (1926) : 『大正震災志』上巻・下巻, 及び, 附図・大正震災志写真帖.
- 浪川幹夫 (2004-06) : 関東大震災の鎌倉, その1~11, 知られざる鎌倉探索, <https://www.ken-net.org/>
- 浪川幹夫 (未公表) : 関東烈震略年表 (鎌倉地方・江戸等を中心に), 『高德院国宝銅像阿弥陀如来坐像修理報告書』 (1961), 高德院 (1938) 『日本の天災・地変, 下』
- 秦野市 (1987) : 秦野の自然Ⅲ, 一震生湖の自然一, 秦野市史, 『自然調査報告書』, 3号, 157.
- 萬年一剛・湯本信治 (2003) : 根府川周辺コース, 神奈川県自然を訪ねて, 『[新訂版]日曜の地学20』, 築地書館, 216-222.
- 藪田拓司 (1989) : 関東大地震松の木は滑った, 『神奈川県温泉地学研究所報告』, 20巻3号, 13-18.
- 山北地方史研究会 (1973) : 足柄の文化, 『関東大震災 (関東大震災の思い出を語る)』, 9号, 56.

- 山口伊佐夫・川邊洋（1982）：地震による山地災害の特性，砂防学会誌（新砂防），35巻2号，p. 3-15.  
 山崎晴雄（1985）：足柄平野の地質と地殻変動，『月刊地球』，7巻8号，466-472.

## 第2節

- 石井清彦（1923）：片瀬海岸の井戸 『地学雑誌』，35巻，417号，543.  
 井上禧久助（1925）：地震による地変 『東京府大正震災誌』，49-58.  
 上本進二・平本元一・飯田孝（1993）：神奈川県厚木市東町遺跡における大正関東地震による液状化跡 『地理学評論』，66-A 703-714.  
 小川 好・岡本 順（1996）：武蔵野台地・多摩丘陵での液状化の検討 『平成8年度東京都土木技術研究所年報』255-262.  
 神奈川県警察部（1926）：『大正大震火災誌』，写真50，本文1203.  
 鎌倉町役場（1930）：『鎌倉震災誌』，写真32，本文319.  
 草野 郁（1989）：関東地震における東京低地の液状化履歴 『土木学会論文集』，第406号/Ⅲ-11 213-222.  
 久保慶三郎・杉山孝志・安田進（1979）：関東地震時の川崎市における液状化地点 『第14回土質工学研究発表会講演論文集』，1289-1292.  
 黒田康子（1990）：手帳別冊『関東大震災と逗子』，手帳の会.  
 警視庁（1895）：東京付近地震（地震其他地異彙報），『震災予防調査会報告』，第3号，142-169.  
 古藤田喜久雄・若松加寿江（1978）：関東大地震の液状化地図，『基礎工』，6-11 77-90.  
 古藤田喜久雄・若松加寿江・渡辺一夫（1986）：1923年関東大地震による相模川下流域の地盤震害 『第7回日本地震工学シンポジウム講演集』，43-48.  
 埼玉県環境部消防防災課（1990）：『大規模地震被害想定調査』中間報告書，35.  
 座間市市史編さん係編集（1984）：『座間の語り伝え』第11集外編2，関東大震災 座間市教育委員会，187.  
 杉本誠史（1991）：相模川流域における関東地震と液状化 『神奈川地学』，72 1-14.  
 杉本誠史（1993）：関東地震による酒匂川流域の液状化 『神奈川地学』，No. 73，8-13.  
 杉本誠史（1994）：関東地震による川崎臨港地区の液状化 『神奈川地学』，No. 74，1-4.  
 仙田四五郎（1989）：藤沢町震災誌（鵠沼編），鵠沼を語る会誌『鵠沼』，第50号，2-9.  
 田中大作（1926）：横浜市に於ける建築物被害調査報告，『震災予防調査会報告』，第100号丙下，379-401.  
 土木学会（1927）：『大正12年関東大地震震害調査報告』，第3巻 第1編橋梁.  
 納富重雄（1923）：日本鋼管株式会社川崎工場に噴出する砂 『地学雑誌35巻』，417-544.  
 地質調査所（1925）：関東地震調査報告第一 『地質調査所特別報告』，第1号，204.  
 地質調査所（1925）：関東地震調査報告第二 『地質調査所特別報告』，第2号，185.  
 濱田政則・安田 進・若松加寿江・森本 巖・清水勝美・菅原俊幸（1989）：1923年関東地震による地盤変状 一日米共同研究一『地盤変状と地中構造物の地震被害に関する研究昭和63年度調査研究報告書（第I分冊）』，地震予知総合研究振興会，201-371.  
 物部長穂（1926）：土木工事震害調査報告 『震災予防調査会報告』，第100号丁，1-66.  
 山崎直方（1925）：関東地震の地形学的考察，『震災予防調査会報告』，第100号乙，11-54.  
 横須賀市震災誌刊行会（1932）：『横須賀市震災誌』，336.  
 横浜市役所市史編纂係編（1926）：『横浜市震災誌』，第1冊 第2冊.  
 若松加寿江（1991）：『日本の地盤液状化履歴図』，東海大学出版会，341.  
 Wakamatsu, K., Hamada, M., Yasuda S. and Morimoto, I. (1989): Liquefaction-Induced Ground Displacement During the 1923 Kanto Earthquake, Proc., 2nd Japan-U. S. Workshop on Liquefaction, Large Ground Deformation and Their Effects on Lifeline Facilities, 36-49  
 渡辺久吉（1923）：品川台場の震災，『地学雑誌35巻』，417号，531-534.

## 第3節

- 伊東市立伊東図書館（1994）：『こわかった地震津波』，210.

## 資料編

内務省社会局(1926)：『大正震災志』上巻, 1236.

神奈川県(1927)：『神奈川県震災誌』, 848.

鎌倉町役場(1930)：『鎌倉震災誌』, 319.

羽鳥徳太郎・相田勇・梶浦欣二郎(1973)：南関東周辺における地震津波, 『関東大地震50周年論文集』, 東京大学地震研究所, 57-66.

静岡県(1924)：『静岡県大正震災誌』, 478.

震災予防調査会(1925)：各地験潮儀記象並に潮候異常等通報蒐録, 『震災予防調査会報告』, 第100号乙, 121-126.

池田徹郎(1925)：伊豆安房方面津波並に初島地変調査報告, 『震災予防調査会報告』, 第100号乙, 97-112.

## 第4章

### 第1節

諸井孝文・武村雅之(2002)：関東地震(1923年9月1日)による木造住家被害データの整理と震度分布の推定, 『日本地震工学会論文集』, 第2巻, 第3号, 35-7.

吉田東伍(1910)：『利根治水考』, 日本歴史地理学会, 254. (復刻版, 1974, 崙書房)

### 第2節

竹内六蔵(1925)：大正十二年九月大震災に因る死傷者調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 229-264.

武村雅之(2003)：『関東大震災・大東京圏の揺れを知る』, 鹿島出版会, 139.

武村雅之(2003)：1923年関東地震による東京都中心部(旧15区内)の詳細震度分布と表層地盤構造, 『日本地震工学会論文集』, 第3巻, 第1号, 1-36.

武村雅之・諸井孝文(2002)：1923年関東地震に対する東京都23区内(旧郡部)での詳細震度分布, 『歴史地震』, 第18号, 97-115.

東京市社会局(1922)：『東京市に於ける住宅の不足数に関する調査』, 68.

東京市社会局(1931)：『東京市住宅調査』, 227.

内務省社会局(1926)：『大正震災志』上巻, 1236.

諸井孝文・武村雅之(2001)：1923年関東地震に対する東京市での被害データの相互比較と地震動強さ, 『日本建築学会構造系論文集』, 540, 65-72.

諸井孝文・武村雅之(2006)：1923年関東地震における死者発生のプロセス—1855年安政江戸地震との比較をふまえて—, 『歴史地震』, 第21号, 47-58.

## コラム

北澤五郎(1926)：木造被害調査報告, 『震災予防調査会報告』100丙午, 1-53

北原糸子(2000)：『地震の社会史—安政江戸地震と民衆』, 講談社学術文庫, 講談社, 352.

斉田時太郎(1935)：耐震及び耐震家屋, 『普及講座防災科学』, 岩波書店, 285-323.

武村雅之(2004)：1923年関東地震による旧東京市内での各種構造物の被害と震度—“土蔵の話”は本当か, 『日本建築学会構造系論文報告集』, 577, 153-157.

野口武彦(1997)：『安政江戸地獄—災害と政治権力』, ちくま新書, 筑摩書房, 238.

諸井孝文・武村雅之(2004)：関東地震(1923年9月1日)による木造住家被害データの整理の震度分布の推定, 『日本地震工学会論文集』, 4, 4, 21-46.

### 第3節

井上禧之助(1926)：地質学上より観たる横浜の地形変化, 『横浜市震災誌』, 第1編, 111-119.

岡田成幸・鏡味洋史(1991)：震度による地震被害系統評価のためのパルナラビリティ関数群の構成, 『地震』第2輯, 44, 93-108.

Omote, S., 1949, Earthquake Damages in Yokohama City due to the Great Kwantō Earthquake of September 1, 1923,

- Bull. Earthq. Res. Inst., 27, 57-62.
- 神奈川県(1927):『神奈川県震災誌』, 848.
- 神奈川県警察部(1926):『大正大震災誌』, 1202.
- 神奈川県農会(1925):『神奈川県農会報』, 第196号, 26.
- 小池徳久(1925):『横浜復興録』, 505.
- 高浜 勉・翠川三郎・新保 寛・阿部 進(2001):1923年関東地震による横浜市での木造家屋の被害分布,『地震工学研究発表会講演論文集』, 1, 105-108.
- 高浜 勉・翠川三郎(2003):1923年関東地震による横浜市での木造家屋被害分布 その2 横浜市南西部での調査結果と地盤条件の関係,『第27回土木学会地震工学論文集』CD-ROM, 論文番号21.
- 武村雅之・諸井孝文(2001):1923年関東地震の地域被害資料総覧,『地震』第2輯, 53, 285-302.
- 鶴見町誌刊行会(1925):『鶴見町誌』, 179.
- 内務省社会局(1926):『大正震災志』上巻, 1236.
- 西坂勝人(1925):『震災状況報告』, 464.
- 西坂勝人(1926):『神奈川県下の大震災と警察』, 496.
- 日本地図センター(1996):『地図で見る横浜の変遷』.
- 松澤武雄(1925):木造建築物による震害分布調査報告,『震災予防調査会報告』第100号甲, 163-260.
- 横浜郷土研究会(1995):横浜に震災記念館があった,『これよき双書』,第14巻, 164.
- 横浜市役所(1932):『横浜復興誌』, 第二編, 896.
- 横浜市役所市史編纂係(1926a):第一編 横浜市大震災の概況,『横浜市震災誌』, 4-63.
- 横浜市役所市史編纂係(1926b):第二編 災害と遭難,『横浜市震災誌』, 第2冊, 1-198.
- 横浜市総務局(1997):『地盤データ整備業務報告書』, 76.
- 横浜市役所(1923):『横浜市被害及救済状況一覧』.

#### 第4節

- 佐野利器(1916, 1917):家屋耐震構造論上,下巻,『震災予防調査会報告』第83号甲・乙.
- 内藤多仲(1924):『架構建築構造論』,早稲田大学出版部, 284.
- 大橋雄二(1993):『日本建築構造基準変遷史』, 日本建築センター, 318.
- ※ 本節をまとめるに際して主に参照した書物である。明治・大正・昭和を通じた耐震規定を含むわが国の建築構造設計基準の歴史の変遷が詳しくまとめられている。なお耐震設計の変遷についてはその他に以下の文献がある。
- 長橋純男(2003):地震荷重の変遷と展開その1 耐震設計の発展(1950年『建築基準法』制定まで),『震災予防』, 190, 26-33.
- 平田京子・石川孝重(2002):耐震性能規定の構築過程に関する研究—水平震度規定導入後から現行法令に至るまでの変遷—,『日本女子大学大学院紀要』, 家政学研究科・人間生活学研究科, 8, 155-164.

#### 第5節

- 武村雅之(2003):『関東大震災—大東京圏の揺れを知る』, 鹿島出版会, 139
- 武村雅之(2005):『手記で読む関東大震災』, シリーズ日本の歴史災害第5巻, 古今書院, 190.
- 那須信治編(1977):『大地震の前兆に関する資料—今村明恒博士遺稿』, 古今書院, 170.
- 山下文男著(2002):『君子未然に防ぐ—地震予知の先駆者今村明恒の生涯』, 東北大学出版会, 357.

#### コラム

- 武村雅之(2005):『手記で読む関東大震災』 シリーズ日本の歴史災害第5巻, 古今書院, 190.
- 山下文男(2002):『君子未然に防ぐ—地震予知の先駆者今村明恒の生涯』, 東北大学出版会, 357.
- 井上禧之助(1923):第一回震災調査報告,『地学雑誌』35巻, 509-524.

## 資料編

- 武村雅之(2003)：『関東大震災-大東京圏の揺れを知る』, 鹿島出版会, 139.  
地質調査所(1925)：『関東地震調査報告』, 第一, 第二, 地質調査所特別報告.  
地質調査所百年史編集委員会(1982)：事業の拡張期(明治38年～大正14年)『地質調査所百年史』, 31-39.  
地質調査所(1925)：『関東地震調査報告』, 第一, 第二, 地質調査所特別報告.

## 第5章

### 第1節

- 神奈川県警察史編さん委員会(1970)：『神奈川県警察史』上巻, 神奈川県警察本部, 1146.  
鎌倉町役場(1930)：『鎌倉震災誌』, 本文319.  
越沢明(1991)：『東京の都市計画』, 岩波書店, 262  
鈴木淳(1999)：『町火消たちの近代—東京の消防史』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー, 211.  
鈴木淳(2005)：『関東大震災 一消防・医療・ボランティアから検証する』, 筑摩書房 ちくま新書, 232.  
東京市(1921)：『東京市政要綱』.  
東京の消防百年記念行事推進委員会(1980)：『東京の消防百年の歩み』, 東京消防庁, 640.  
都市研究会(1941)：『街 明治大正昭和』, 都市研究会, 276  
内藤清成(1590)：本町通り絵図仰せつけらる。四十丈づつに割り申すべし。『天正日記』.  
深川区役所(1926)：町割りについての考察, 『深川区史』上巻(1).  
深川区役所(1926)：『東京震災録』.  
横須賀市震災誌刊行会(1932)：『横須賀市震災誌』, 336.  
横浜消防二十年史刊行委員会(1970)：『炎 横浜消防二十年』, 568.

### 第2節

- 井上一之(1925)：帝都大火災誌, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 135-184.  
緒方惟一(1925)：関東大地震によれる東京大火災, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 1-80.  
竹内六蔵(1925)：大正12年9月大震火災による死傷者調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 229-264.  
東京市(1926-1927)：東京震災録, 前中後別輯全5冊.  
中村清二(1925)：大地震による東京火災調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 81-134.  
内務省社会局(1926)：『大正震災志』(上), 1236.

### 第3節

- 井上一之(1925)：帝都大火災誌, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 135-184.  
今村明恒(1923)：大地震調査日記(続), 『科学知識』, 科学知識普及会, 76-95.  
緒方惟一(1925)：関東大地震によれる東京大火災, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 1-80.  
川越邦夫ほか(1970)：建築学大系21, 『建築防火論』彰国社, 607.  
篠原雅彦・工藤一彦・佐藤晃由(2002), 横風を受ける火災の風下に発生する水平渦・垂直渦, 『第39回日本伝熱シンポジウム講演論文集』, 339-340.  
Seiji Soma and Kozo Saito(1991)：Reconstruction of fire whirls using scale models. Combustion and Flame, 86, 269-284.  
相馬清二(1975)：被服廠跡に生じた火災旋風の研究, 『地学雑誌』, 84, 4, 204-217.  
内務省社会局(1926)：『大正震災志』(上), 1236.  
竹内六蔵(1925)：大正12年9月大震火災による死傷者調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 229-264.  
Charles, H. V. E., Hamburg's Firestorm Weather(1963), NFPA Quarterly.  
寺田寅彦(1925)：大正十二年九月一日二日の旋風に就て, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 185-228.

- 東京都防災会議(1973)：『大震火災時の焼失範囲の推計に関する調査研究』, 214.
- 中村清二(1925)：大地震による東京火災調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 81-134.
- 島山久尚(1942)：関東大震火災の際の東京に於ける延焼速度, 『火災における延焼速度』, 東京消防研究会, 100.
- 藤田哲也(1974)：『たつまき』上, 共立出版, 228.
- 藤原咲平(1924)：『関東大震災調査報告』(気象編), 中央气象台, 161.
- 光田寧・文字信貴(1982)：大火災に伴う旋風について, 『京大防災研究所年報』, 25, B-1, 255-271.
- 山下邦博(1974)：火災旋風, 『火災』, 24, 243-258.
- 吉野正敏他(1986)：『気候学・気象学辞典』, 二宮書店, 742.
- 和歌山市役所(1956)：『和歌山市戦災誌』, 144.
- 2003年10月27日アメリカ合衆国カリフォルニア州の森林火災で発生した火災旋風の写真：AP=共同【写真引用】

#### 第4節

- 井上一之(1925)：帝都大火災誌, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 135-184.
- 緒方惟一(1925)：関東大地震によれる東京大火災, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 1-80.
- 都市防災実務ハンドブック編集委員会(1997)：『都市防災実務ハンドブック—地震防災編』, 249.
- 竹内六蔵(1925)：大正12年9月大震火災による死傷者調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 229-264.
- 中村清二(1925)：大地震による東京火災調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 81-134.
- 藤田金一郎(1969)：『建築防火工学原論』, 昭和44年, 150.
- 藤原咲平(1924)：『関東大震災調査報告』(気象編), 中央气象台, 161.

#### 第5節

- 横浜市(1926)：『横浜市震災誌』第1冊, 第2冊.
- 藤原咲平(1924)：『関東大震災調査報告』(気象編), 中央气象台, 161.
- 神奈川県(1927)：『神奈川県震災誌』, 848.

#### コラム

- 中村清二(1925)：大地震による東京火災調査報告, 『震災予防調査会報告』第100号戊, 震災予防調査会, 81-134.
- 中田金市(1975)：『防災対策の現状と展望』, 手記・関東大震災, 新評論, 241-262.
- 浜田稔(1973)：『大震火災時の焼失範囲の推計に関する調査研究』, 東京都防災会議, 214.
- 横須賀市震災誌刊行会(1932)：『横須賀市震災誌』, 336.